

平成21年4月発行 発行者 砺波カイニョ倶楽部 代表幹事 柏樹直樹
事務局 富山県砺波市表町14-10 電話 0763-33-6588 天野一男建築工房内

さわやか春のカイニョ掃除

3月28日(土)午前、砂田敬二さん宅(砺波市鷹栖)のカイニョ掃除を17名が参加しおこなった。少し寒かったが、すっかり晴天となり、さわやかで思っきり体を使いすがすがしい空気もらった。

前日までの3日間は雪に冷雨、すっかり上空に寒気が居座り心配したが、当日は好天に恵まれた。

約2時間で広い屋敷林のスンバを中心とした落枝葉を整理できた。落枝葉は屋敷の一角に山積みになった。あとで砂田さんは時間をかけて広い庭で燃やす段取り。

砂田さんから「屋敷全体をこれだけすっきりしてもらいうれしい。土にクマ手あとが残っているのが美しい。大変感謝。これからは、機会がとれたら倶楽部の行事に参加したい。」と喜ばれた。

作業のあと、熱い豚汁で一服。屋敷林内の樹木のことや、裏庭のフキノトウのこと、昔の家の配置、物置に古い戸を利用したこと等の話してくつろいだ。そのなかで、大樹のヒイラギの葉にトゲの形や、丸形のあるのは何故かとの疑問が出された。

和田健さんから色んな木の事例もふくめ、「高齢になると丸くなるのではないか。そこに学ばねば」といったオチのある話しも聞き、一同考えながらの大笑いを受けとめた。

この活動を北日本新聞と富山新聞が後日報道した。

――砂田敬二さん宅のカイニョ――

- ・ ヒノキ、スギ、カシの高木による混成林
- ・ 樹齢も多層で高木の下にモチ、モッコク、ヒイラギの中木が支え、下にツツジが入る。
- ・ カイニョは家屋の東南面に集中成立。その樹叢は重厚。
- ・ 林内は古い水路、池と土山の跡がある。少しの起伏のあることが樹木の成長を助け、刺激になっている。
- ・ 安定したカイニョの典型。



スンバを浚えドアに入れ運ぶ



林内のスンバ浚え



カイニョの様子と休憩

枝張 28m、樹齢 150 年余の勇壮なケヤキが、3月25日伐倒された。
それは、直線で合理的な市道の新設のために犠牲になったのだ。

ケヤキは庄川からの用水取り入れの守護神・舟戸神社境内の象徴木で、市保存樹にもなっていた。ただ、境内には江戸・明治の技術を伝える石碑や石灯籠が社屋と共にあり、それらは新地に移された事は幸いだ。

直線で合理的な市道が現市民の求めだとしても、象徴木や史蹟は、先人の祈りであり文化だ。その保全・継承こそ次時代の求めであり基本ではないか。

市政実行者は一步先んじて物事を判別し、対処する先見性、柔軟性が必要だ。
その為には、新計画対象地のあらゆる情報をとらえ、関係機関や委員会等の知恵をふまえ「知らなかった」と嘘ぶくこと無く、開かれた仕事をしてほしいと共に、行政実行者全員の理念として心してほしいものだ。

当然この様な計画・実行には、時間も費用もかかりわずらわしさも伴うにちがいない。しかし、それを否定し事を進めるなら、後のリスクは大きく、取り返しのつかない結果を招く。

ケヤキは庄川先頂部の中心木として砺波平野の安寧を見続けてきた唯一の生き物であった。その命を絶った現市民への先人とケヤキの怨念を心しておかねばならない。 本当に、曲がった市道でいけないのか？



平成21年3月舟戸社. ケヤキの最後の感謝の祈り (尾田武雄氏撮影)



樹令150年の砺波市保存樹 (左) 3月伐採された根株 (舟戸社の鳥居と石碑)
(砂田龍次氏撮影)

ハダニ、カイガラムシの被害減少

「グリーンプロシート」の活用で

- ① 木炭とセラミックを混ぜたもので電気を通さない。その帯状のシート (包帯のようなもの) を樹木の幹 (胸高部) に巻いておくことで効果が出る。
- ② 木炭は遠赤外線を発生する特性をもつ。これが水分子に当たると細かいマイナスイオンと大きいプラスイオンの分子に分けられ、マイナスイオンを飛散させることで、いろんな効果が生ずる。
- ③ 効用
 - 1) 根から吸収した養分が、シートの内側を通過することで、葉への養分の量が多くなる。——樹木に活力がつく。
 - 2) ハダニ、カイガラムシ、アブラムシ等は、シートの内側に集まり、その他に入っている天敵に食われる。
- ④ 商品価格
 - 1) 30cm (幅) * 10m (長さ) 1本: 6930円
 - 2) 日本海環境サービス (株) にて販売